



「金融・金銭教育に関する教員セミナー」を開催しました

8月10日(水)、日本銀行大分支店において「**金融・金銭教育に関する教員セミナー**」を開催しました。

本セミナーは、学校の先生方に、金融・金銭教育の必要性や金融教育の具体的な進め方について、より一層理解を深めるとともに、授業に役立てて頂くことを目的に一昨年より開催しています。

大政 浩一 副会長(日本銀行大分支店長)の「最近の金融経済情勢について」の講演に続いて、大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス)の消費生活相談指導員 **村上 美佳子氏**が、「生徒に教えた消費者教育」と題する講演を行いました。

講演では、「消費者教育」＝「生き方教育」であるとの話があったあと、近年幅広い年代で被害が多発しているインターネット関係の「高額な出会い系サイト」(サイト運営者が雇った“さくら”とメールをやり取りさせ高額のサイト利用料を請求)や、「キャッチセールス」、「アポイントメントセールス」、「資格商法」などの被害について紹介がありました。

また、業者の手口から被害救済まで、実際に発生した事例をもとに分かり易く説明・解説したうえで、「困ったこと、納得できないことがあったら、出来るだけ早く周りの誰か(家族、友人、学校の先生等)に相談することが大切です。また、トラブルの未然防止や解決には、県・市の消費生活センターや市町村の窓口相談も、是非活用願いたい」との話がありました。

午後からは、日本銀行大分支店の見学をしたあと、小・中学校教員、高等学校教員に分かれて、金融教育の進め方についてディスカッションを行い、参加の先生方による活発な意見交換が行われました。



大分みらい信用金庫との共催により「夏休み親子スクール」を開催しました



8月19日(金)、大分みらい信用金庫との共催(後援:大分県信用金庫協会)により、平成23年度「**夏休み親子スクール**」を同金庫石垣支店で開催し、17組39名の親子が参加しました。

本スクールは、子供に健全な金銭感覚を身に付けてもらうほか、自分達の生活に身近なお金の役割・流れなどについて、理解・関心を深めてもらう目的で開催したものです。

大分みらい信用金庫 関 啓二 理事長の開講挨拶のあと、職員の方から、お金や信用金庫の機能・機能について説明がありました。

説明では、「お金にはものを交換する、ものの価値を保存する、ものの価値の目安となる3つの機能がある」ことや、信用金庫は「お金を預かる、貸す、送るという仕事を通じ皆さんのお役に立っている」ことを学びました。また、「皆さんが着ている服や身の回りのものは、全てお父さん・お母さんが一生懸命働いて得たお給料で買ってくれたものです。感謝を忘れず大切に使いましょう」との話がありました。

続いて、一億円の模擬券を持ったり、いつもは見ることのできない金庫の中やATMの裏側などを見たり、1円から500円までの違う硬貨がたくさん入った袋を持って重さを当てたり、お金を数える“札鑑”を行うなどの体験をしました。

最後に、当委員会金融広報アドバイザーの指導で「お買い物ビンゴゲーム」を行い、おこづかいのやりくりや「おこづかい帳」の付け方などを学びました。

